

司馬遼太郎の愛したまち【大阪】

『坂の上の雲』『燃えよ剣』『国盗り物語』など、数多くの歴史小説を残した司馬遼太郎（1923-1996）は、大阪で生まれ、育ち、生涯を閉じた。「なぜ、歴史小説を書くのか」というテーマについて、司馬は自身の著書で以下のように語っている。

人間にとって、その人生は作品である。この立場で私は小説を書いている。

『歴史と小説』（集英社）

学徒出陣の復員後に入った新聞社を辞め、執筆生活に入った司馬は、坂本竜馬を主人公にした小説を書き始める。くしくも司馬はその頃、土佐藩の蔵屋敷があった敷地の一角に住んでいた。窓の外には、土佐稲荷神社。幕末を駆け抜けた者たちが見たであろう桜が咲き乱れている。司馬は、窓から見える景色に、志士たちの「人生」という作品を見たのではないだろうか。

維新の舞台である大阪は、司馬の「人生」という作品の舞台でもあったのだ。



写真は、司馬が住んだ西長堀団地の10階からの風景。